

Administration for Psychiatry

わが国におけるハーム・リダクション政策の 可能性と課題

松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

Harm Reduction とは何か？

国家的規模で薬物問題に取り組む際、まず優先されるのは、国民の薬物使用量低減のための対策である。そして国民の薬物使用量低減にあたっては、2つの戦略が、いわば車の両輪となって機能しなければならない。その1つは、Supply Reduction (供給低減) である。これは、社会内に薬物が流通しないように、薬物を規制し、販売者や販売組織を取り締まることを意味する。そしてもう1つは、Demand Reduction (需要低減) である。薬物を欲しがる人を減らすこと (= 薬物乱用防止・再乱用防止) を意味する。なかでも使用障害の治療と回復支援が重要である。というのも、危険を冒して薬物を入手し、闇マーケットにおける薬物価格を高騰させているのは、使用障害罹患者だからである。

しかし、規制強化による供給低減には限界があり、使用障害の治療・回復支援のための体制を整備しても、治療にアクセスしないも

の、あるいは治療から脱落するもの、さらには、治療を最後まで受けたにもかかわらず断薬困難なものも必ず存在する。そのようなものに対しては、薬物使用の結果生じる健康被害や社会的弊害を低減することで、薬物使用によるharmを最小化する必要がある。そのための対策がHarm Reduction(HR)なのである。いいかえれば、HRは、決して供給低減と需要低減による薬物使用量低減施策を否定するものではなく、むしろそれを補完する施策といえる。

定義と実践例

今日的な意味でHRを定義するならば、次のようになる。「すべての薬物使用者に適用される、薬物使用によるharm低減のためのヘルスケア、社会福祉サービスの政策、および支援実践の理念」¹⁾。具体的には、注射室設置、無償注射器交換サービス、メサドンやブプレノルフィンによるオピオイド代替療法、安全な薬物使用法に関する情報提供

などの実践例がある。こういってもよい。HRとは、薬物使用をやめられない人、あるいは、やめつつもりのない人が一定の割合で存在することを前提とし、薬物の使用量ではなく、個人および社会レベルにおける薬物使用による「ダメージ」の量に注目し、その低減を求める公衆衛生施策である、と。

実際、臨床現場では、薬物使用をやめられない患者は一定の割合で必ず存在するものだ。薬物使用者のなかには、さまざまなトラウマや併存精神障害が引き起こすさまざまな心理苦痛に対する「自己治療self-medication」²⁾として薬物使用を続けるものも少なくない。そのような薬物使用者の多くは、従来の厳罰政策では逮捕、服役をくりかえして社会内で孤立を深め、治療の場では断薬プログラムから脱落した。しかし、非犯罪化政策や、harm低減を目標とする治療ならば、孤立や、治療・支援からの脱落を回避できる。

それから、薬物を使用しつつも社会的機能を維持しており、薬物をやめる気持ちになれない人々の